

つきたい力

- 基礎・基本的な語彙を自分のペースで身に付ける力
- 言葉の学習を楽しみ、継続して取り組む力

取組みの概要・ポイント

- 個別最適×自由進度×AIを導入した校内で開発した語彙学習
- ロイロノートを活用し、語彙・漢字を中心とした基礎的な言語能力の定着
- ゲーム性やストーリー性を取り入れ、学習意欲を高めながら主体的な学びを促進

具体的な取組みの内容 「ドラゴンクエスト」

個別最適な学び・自由進度学習で進める語彙学習

ロイロノートを活用した学習の仕組み

学力向上部を中心に、語彙学習を個別最適な学び・自由進度学習として実施。朝学習やすきま時間を活用して、児童が自分で挑戦したい問題を選択して取り組む学習形態としている。問題は難易度別で構成し、理解度や学習ペースの違いに対応しており、児童の興味関心に応じて選択できるよう工夫している。教師が一斉に進めるのではなく、児童が自分の状況に応じて学習を進められる環境を整えている。



ロイロノート内に「ドラゴンクエスト」(語彙・漢字問題の各ステージをクリアすると、AIで生成したモンスターカードなどをゲットできる自由進度型・ゲーム性を取り入れたロイロノート上の学習プログラム)専用ノートを作成し、語彙・漢字を中心とした複数のデジタルプリントを配置。児童は問題を解いた後、次のページで答えを確認し、自分で丸つけを行うことで学習の振り返りを行う。



月末には「ボスクエスト」を設定し、全問正解すると次のステージへ進める仕組みとすることで、繰り返し学習に取り組めるよう工夫している。

ストーリー性のある構成で学習意欲の向上

学習と読書を往還させる

第1章から学校・八尾市・大阪府へと舞台が広がっていくストーリー性のある構成とし、児童が旅をしているような感覚で学習を続けられる。「ボスクエスト」(各ステージのまとめ問題)に全問正解すると、AIで生成したモンスターカードやアイテムカードを獲得できる仕組みを取り入れ、達成感を味わえるよう工夫している。

分からなかった問題や、新たに学んだ語彙・表現を本で調べたり、学校図書館で関連する本を読んだりしている。児童は、辞書や事典などの本を活用しながら、言葉の意味や使い方を確かめ、学びを深めている。廊下には関連図書コーナーも設けている。デジタル上の学習で生まれた疑問や気付きが、学校図書館での読書や調べ学習へとつながる学習の流れをつくることで、語彙学習を一過性のものにせず、言葉への関心を広げることが大切になっている。

ゲーム性とストーリー性を組み合わせることで、学習意欲を高め、語彙学習を継続して行うことができる。



取組みを通しての子どもの変容

自分のペースで問題を選び、繰り返し挑戦できることで、進んで学習に取り組む姿が見られた。また、分からない言葉に出会った際には、辞書や図書館の本を使って調べたり、関連する本を読んだりする姿が増え、言葉の意味や使い方を確かめながら学びを深めている。ドラゴンクエストを継続して行うことで、児童が日常的に使う語彙の数が増え、言葉への関心が高まっている。さらに、他の言語活動と組み合わせることで、文章を書くことへの抵抗感が軽減され、自分の考えを様々な言葉を使って書き表す姿が見られるようになった。